

CJV200 series

CJV200-160

Mimaki



JFX200-1213 EX

JFX200-1213 EX

TS330-3200 DS



Mimaki

TXF300-1600

TXF300-1600

Mimaki V10

株式会社 ミマキエンジニアリング

2025年3月期 第2四半期

# 決算説明会

2024年11月18日



証券コード  
6638

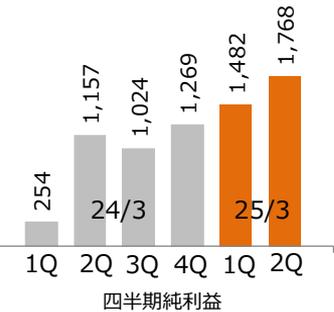
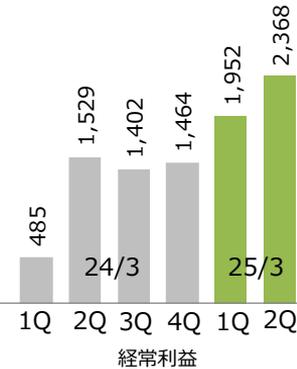
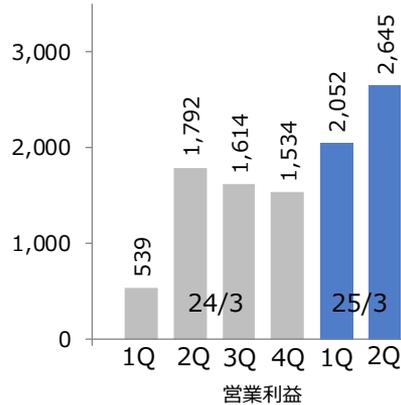
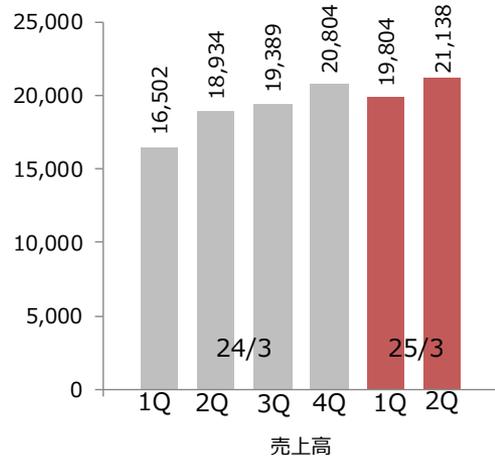
## 2025年3月期第2四半期 連結業績

- ❖ 第2四半期・上期実績
- ❖ 2025年3月期 通期予想
- ❖ 資本コストと株価を意識した経営の実現に向けた対応の進捗
- ❖ 中長期成長戦略「Mimaki V10」の進捗

# 連結業績ハイライト (2025年3月期 2Q実績)



(単位：百万円)	2024年3月期		2025年3月期					
	2Q実績	売上高 比率	2Q実績	売上高 比率	前年同期比増減			
					金額	率	率(除為替)	
■ 売上高	18,934	-	21,138	-	+2,204	+11.6%	+9.9%	
■ 営業利益	1,792	9.5%	2,645	12.5%	+853	+47.6%	-	
■ 経常利益	1,529	8.1%	2,368	11.2%	+839	+54.9%	-	
■ 親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,157	6.1%	1,768	8.4%	+610	+52.8%	-	
為替レート	米ドル	144.63円	-	149.36円	-	+4.73円	+3.3%	-
(期中平均)	ユーロ	157.29円	-	163.98円	-	+6.69円	+4.3%	-



## ■ 2Q売上高

- 前年同期比 2,204百万円の増収( +12%、内為替影響 +339百万円)、予想並み
- 製品市場別では、IPが主力の小型FB\*1モデルに加え、大型FBモデル新製品が順調に立ち上がり大幅増収。SGもUVインク搭載モデルを中心に増収。TAは各エリアで高水準な販売は維持しているものの、北米の特定販売チャネル向けにDTF\*2モデルの出荷を調整している影響が大きく、若干の減収
- 地域別では、日本、アジア・オセアニアが大幅増収、欧州、北米も堅調
- 全社では、為替のプラス影響も加わり大幅な増収、為替影響を除いても 5四半期連続で増収

## ■ 2Q営業利益

- 前年同期比 853百万円の増益( +48%、内為替影響 +183百万円)、予想比上振れ
- 海上輸送コストは上昇の一方、高コスト部材を使用した製品の販売がほぼ終結し、売上原価率が大幅改善
- 人件費、支払手数料、研究開発費等が増加したものの、効率的な費用執行により、販管比率が改善
- これらに為替のプラス効果が加わり、前年同期比大幅な増益。2025年度に営業利益率10%達成を目指す「Mimaki V10」の目標を半期ベースでクリアして、中間利益としては過去最高益を更新

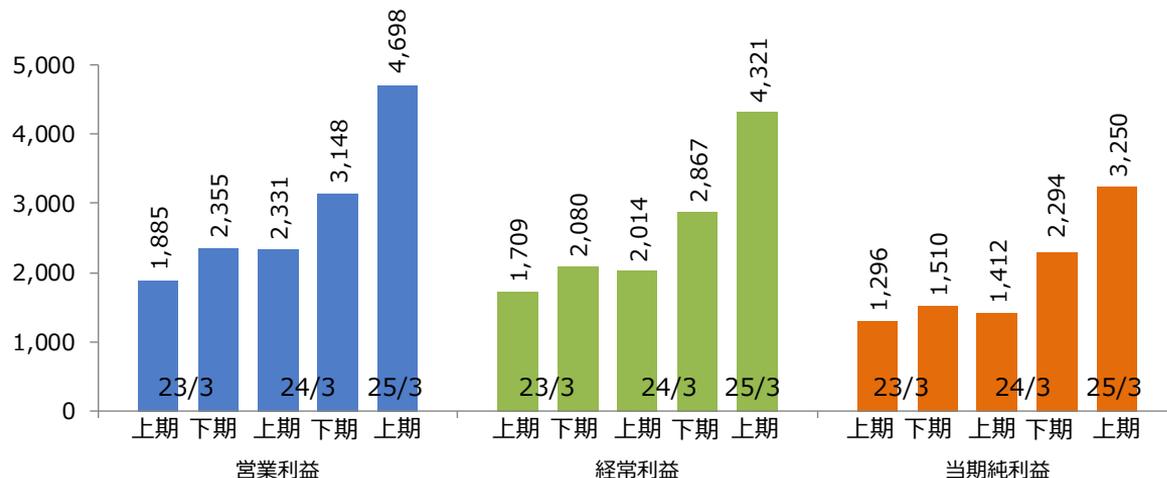
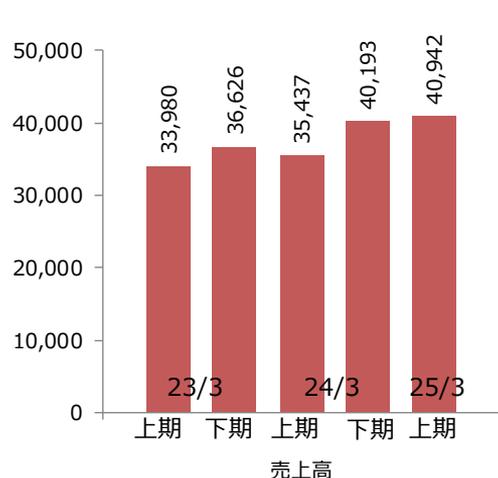
## ■ 2Q末バランスシート

- 重点指標CCC\*3は、販売増加の影響はあるものの、在庫の適正化を進め前期末比、前年同期比で改善  
2023/9/末:5.16月→12/末:4.69月→2024/3/末:4.51月→6/末:4.61月→9/末:4.29月

# 連結業績ハイライト (2025年3月期 上期実績)



(単位：百万円)		2024年3月期		2025年3月期						
		上期実績	売上高 比率	上期実績	売上高 比率	前年同期比増減			前回予想	前回予想比 増減額
						金額	率	率(除為替)		
■ 売上高		35,437	-	40,942	-	+5,505	+15.5%	+10.4%	40,900	+42
■ 営業利益		2,331	6.6%	4,698	11.5%	+2,366	+101.5%	-	3,900	+798
■ 経常利益		2,014	5.7%	4,321	10.6%	+2,306	+114.5%	-	3,600	+721
■ 親会社株主に帰属する 中間純利益		1,412	4.0%	3,250	7.9%	+1,838	+130.1%	-	2,550	+700
為替レート	米ドル	141.00円	-	152.62円	-	+11.62円	+8.2%	-	146.95円	+5.68円
(期中平均)	ユーロ	153.38円	-	165.93円	-	+12.55円	+8.2%	-	158.94円	+6.99円



# 営業利益増減要因 (24/3期 上期 vs 25/3期 上期)



## 【通貨別影響額】

USD /	141.00円	→	152.62円		+472
EUR /	153.38円	→	165.93円		+510
CNY /	19.75円	→	21.15円		-81
TRY /	6.02円	→	4.64円		-91
AUD /	93.21円	→	101.36円		+46
その他 (BRL、INR等)					+79
				合計	+935

## 【売上・原価・営業利益への為替影響】

売上高1,814 - 売上原価 476 - 販管費 402 = 営業利益 935

## 【売上原価率増減要因】

海上輸送コストは上昇したものの、高コスト部材を使用した製品の販売がほぼ終結し、売上原価率が大幅に改善

## 【販管費増減の要因】

人件費	+503
研究開発費	+307
支払手数料	+226
運搬費	+93
販売促進費	+71
その他	+21
合計	+1,222

(単位：百万円)

① 為替影響

② 売上高増減影響

③ 売上原価率増減影響

④ 販管費増減影響

935

1,575

1,077

-1,222

売上原価率

57.3%

↓

54.6%

(-2.7pt)

販管费率

36.1%

↓

35.8%

(-0.3pt)

2,331

営業利益  
(24/3期)

4,698

営業利益  
(25/3期)

営業利益 +23億66百万円

# 市場別売上高 (2025年3月期 2Q実績)



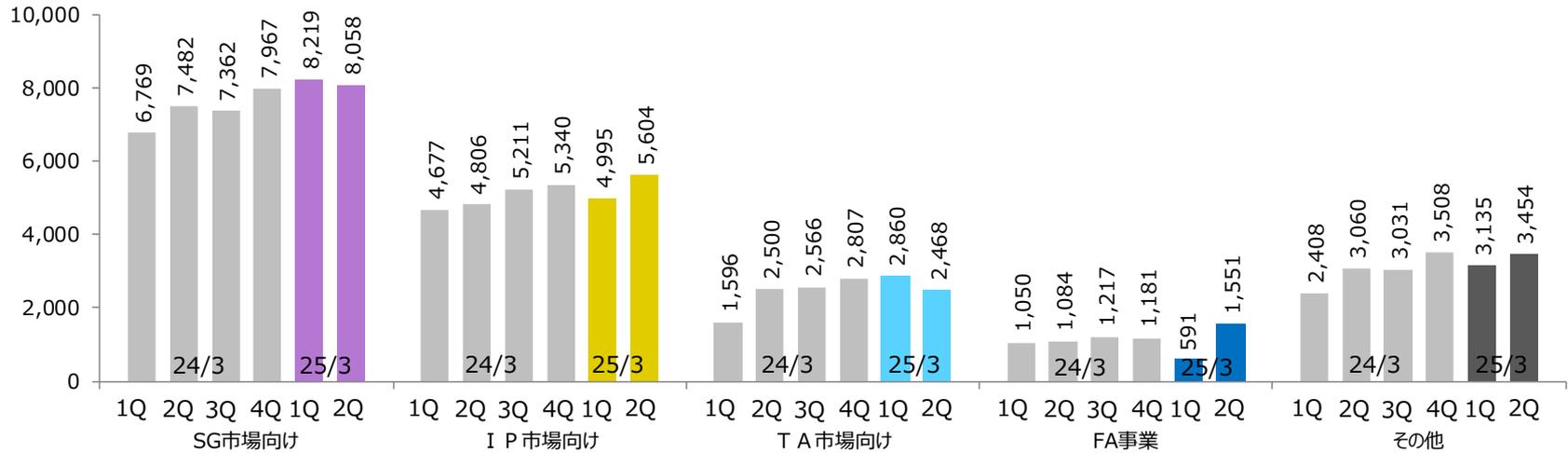
(単位：百万円)	2024年3月期		2025年3月期				
	2Q実績	構成比率	2Q実績	前年同期比増減			構成比率
				金額	率	率(除為替)	
■ S G 市場 向け	7,482	39.5%	8,058	+576	+7.7%	+5.2%	38.1%
■ I P 市場 向け	4,806	25.4%	5,604	+798	+16.6%	+14.9%	26.5%
■ T A 市場 向け	2,500	13.2%	2,468	-32	-1.3%	-3.5%	11.7%
■ F A 事業	1,084	5.7%	1,551	+466	+43.0%	+43.4%	7.3%
■ そ の 他	3,060	16.2%	3,454	+394	+12.9%	-	16.3%
合 計	18,934	100.0%	21,138	+2,204	+11.6%	+9.9%	100.0%

- SG市場向け: プリント本体は、既存溶剤インクモデルの販売が減少した一方、UVインク搭載モデルがフラグシップ/エントリーモデル共に販売が好調に推移。インクの販売も堅調。為替のプラス影響も加わり、増収
- IP市場向け : 本体は、既存小型FBモデルに加え、2Qから市場投入した大型FBモデルJFX600-2531の販売が着実に立ち上がり、大幅な販売増加。インクも堅調に販売伸長。為替のプラス影響もあり、大幅増収
- TA市場向け : 各エリアで高水準な販売を維持する中、北米特定チャネル向けでDTFモデルの出荷を調整している影響が大きく、インクの大幅な販売増や為替のプラス影響があったものの、若干の減収
- FA事業 : 基板検査装置のアジア向け販売が減少したものの、FA装置や基板実装装置が自動車産業向けの販売が大きく伸び、大幅な増収

# 市場別売上高 (2025年3月期 上期実績)



(単位: 百万円)	2024年3月期		2025年3月期						
	上期実績	構成比率	上期実績	前年同期比増減			構成比率	前回予想	前回予想比増減額
				金額	率	率(除為替)			
SG市場向け	14,251	40.2%	16,278	+2,026	+14.2%	+8.1%	39.8%	15,747	+530
IP市場向け	9,484	26.8%	10,600	+1,116	+11.8%	+7.0%	25.9%	10,753	-152
TA市場向け	4,097	11.6%	5,329	+1,232	+30.1%	+22.7%	13.0%	5,960	-631
FA事業	2,135	6.0%	2,143	+8	+0.4%	+0.3%	5.2%	2,593	-449
その他	5,469	15.4%	6,590	+1,121	+20.5%	-	16.1%	5,845	+745
合計	35,437	100.0%	40,942	+5,505	+15.5%	+10.4%	100.0%	40,900	+42



# エリア別売上高 (2025年3月期 2Q実績)



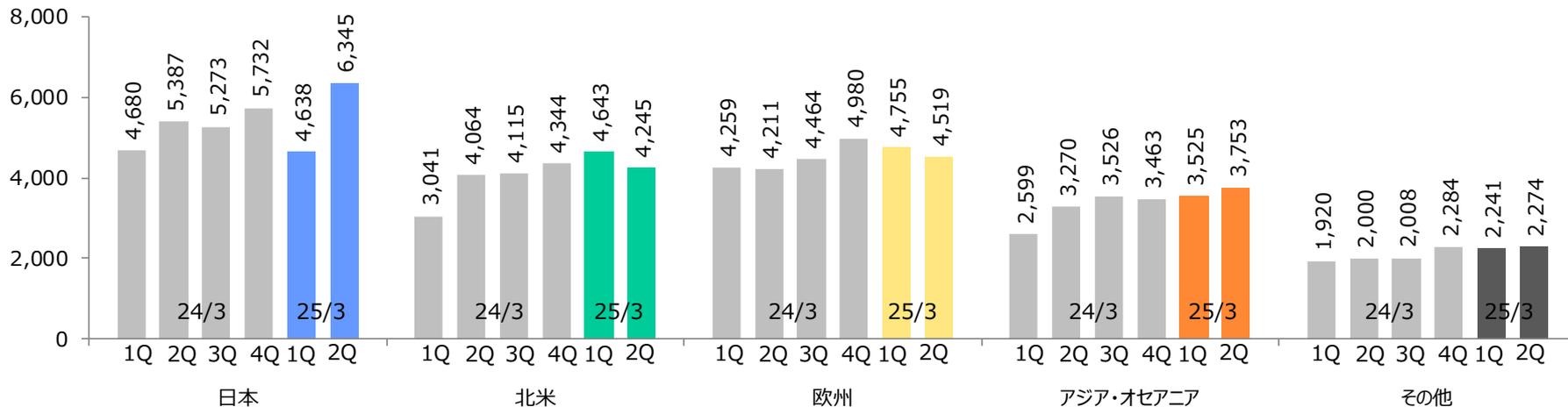
(単位：百万円)	2024年3月期			2025年3月期			
	2Q実績	構成比率	2Q実績	前年同期比増減		構成比率	
				金額	率		
■ 日本	5,387	28.4%	6,345	+957	+17.8%	30.0%	
■ 北米 (現地通貨 / \$)	4,064 28.1M	21.5% -	4,245 28.5M	+180 +0.4M	+4.4% +1.5%	20.1% -	
■ 欧州 (現地通貨 / €)	4,211 26.7M	22.2% -	4,519 27.5M	+308 +0.8M	+7.3% +3.0%	21.4% -	
■ アジア・オセアニア	3,270	17.3%	3,753	+483	+14.8%	17.8%	
■ その他	2,000	10.6%	2,274	+274	+13.7%	10.8%	
合計	18,934	100.0%	21,138	+2,204	+11.6%	100.0%	

- 日本: IPが小型FBモデルに加え大型FBモデル新製品が立ち上がり販売が大幅に増加。TAも好調を維持し大幅な販売増。SGも堅調に販売を伸ばした。FAもFA装置や基板実装装置が好調。全体で大幅増収
- 北米: IPが好調で大幅に販売を伸ばし、SGの販売も堅調に伸びた。TAはDTFモデルの出荷調整の影響によりプリンタ本体の販売が減少したものの、インクの販売が大幅に増加。為替のプラス影響もあり増収
- 欧州: SGがUVインク搭載モデルが好調で大幅な販売増。TAも販売が好調。IPの販売は若干減少。国別ではドイツ、ポルトガル、オランダ等で販売が大幅に伸び、他の主要国も堅調。為替のプラス影響も加わり増収
- A・O: 中国の販売好調が継続。インド、フィリピン、オーストラリア等でも販売が大きく伸長。全体では大幅増収

# エリア別売上高 (2025年3月期 上期実績)



(単位：百万円)	2024年3月期		2025年3月期					
	上期実績	構成比率	上期実績	前年同期比増減		構成比率	前回予想	前回予想比増減額
				金額	率			
■ 日本	10,068	28.4%	10,983	+915	+9.1%	26.8%	11,355	-371
■ 北米	7,106	20.1%	8,888	+1,781	+25.1%	21.7%	8,627	+260
(現地通貨 / \$)	50.2M	-	58.3M	+8.0M	+16.0%	-	58.6M	-0.3M
■ 欧州	8,471	23.9%	9,275	+804	+9.5%	22.7%	9,211	+63
(現地通貨 / €)	55.2M	-	55.8M	+0.6M	+1.2%	-	58.0M	-2.1M
■ アジア・オセアニア	5,870	16.6%	7,279	+1,409	+24.0%	17.8%	7,265	+14
■ その他	3,920	11.1%	4,515	+594	+15.2%	11.0%	4,439	+75
合計	35,437	100.0%	40,942	+5,505	+15.5%	100.0%	40,900	+42



# 要約貸借対照表 (2024年9月30日現在)

(単位：百万円)		2024年 3月31日	2024年 9月30日	増減額	増減率
資産 の 部	現金及び預金	17,365	14,030	-3,334	-19.2%
	受取手形及び売掛金(※1)	14,105	12,877	-1,228	-8.7%
	たな卸資産	24,961	25,440	+478	+1.9%
	その他流動資産	2,334	2,379	+45	+1.9%
	流動資産合計	58,766	54,727	-4,039	-6.9%
	有形固定資産	12,535	12,245	-289	-2.3%
	無形固定資産	1,040	1,019	-20	-2.0%
	投資その他の資産	3,376	3,716	+339	+10.1%
固定資産合計	16,951	16,981	+29	+0.2%	
合計	75,718	71,708	-4,009	-5.3%	
負債 ・ 純 資 産 の 部	支払手形及び買掛金(※1)	8,862	8,675	-186	-2.1%
	短期借入金(※2)	21,705	16,117	-5,587	-25.7%
	その他流動負債	10,945	11,293	+347	+3.2%
	流動負債合計	41,513	36,086	-5,426	-13.1%
	長期借入金	4,887	4,396	-491	-10.1%
	その他固定負債	1,927	1,695	-231	-12.0%
	固定負債合計	6,814	6,091	-723	-10.6%
負債合計	48,327	42,178	-6,149	-12.7%	
純資産合計	27,390	29,530	+2,139	+7.8%	
合計	75,718	71,708	-4,009	-5.3%	

## ❖ 資産の部 -4,009

- ・ 流動資産 (-4,039)  
→現金及び預金の減少等
- ・ 固定資産 (+29)  
→投資その他の資産の増加等

## ❖ 負債の部 -6,149

- ・ 流動負債 (-5,426)  
→短期借入金の減少等
- ・ 固定負債 (-723)  
→長期借入金の減少等

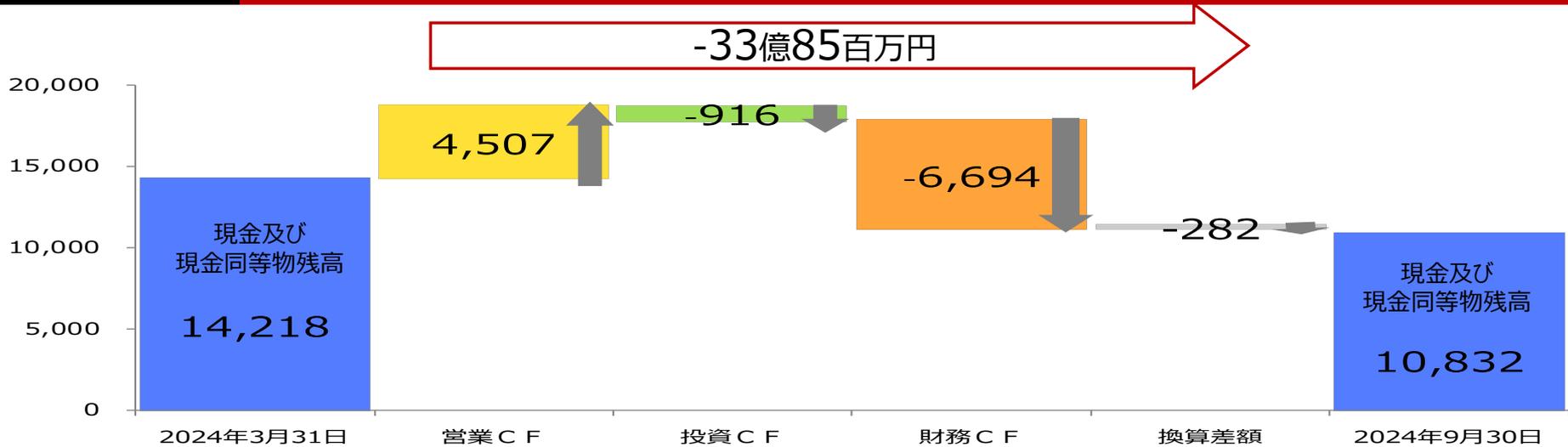
## ❖ 純資産の部 +2,139

→利益剰余金の増加等

(※1) 電子記録債権、電子記録債務を含む

(※2) 1年内返済予定長期借入金を含む

# キャッシュ・フロー (2025年3月期 上期)



## 営業キャッシュ・フローの状況

EBITDA (※)	+6,032
運転資金増加	-409
税金、利払等	-1,114
<b>合計</b>	<b>+4,507</b>

## 投資キャッシュ・フローの状況

定期預金の収支	-90
固定資産の取得	-779
その他	-46
<b>合計</b>	<b>-916</b>

## 財務キャッシュ・フローの状況

短・長期借入金収支	-6,028
配当金支払	-413
その他	-252
<b>合計</b>	<b>-6,694</b>

(※) 利払前、税払前、償却前の営業利益

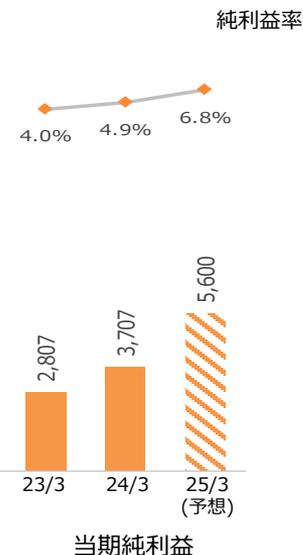
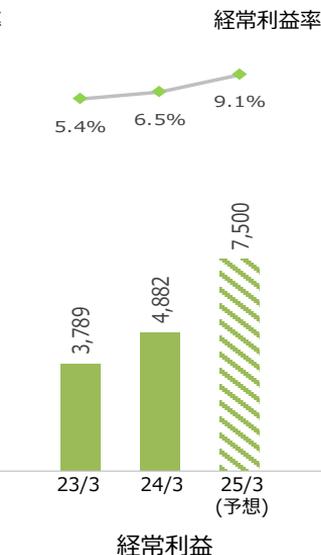
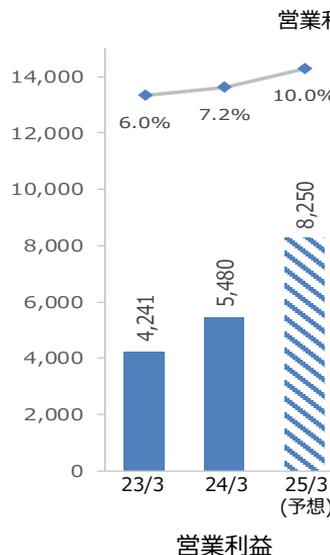
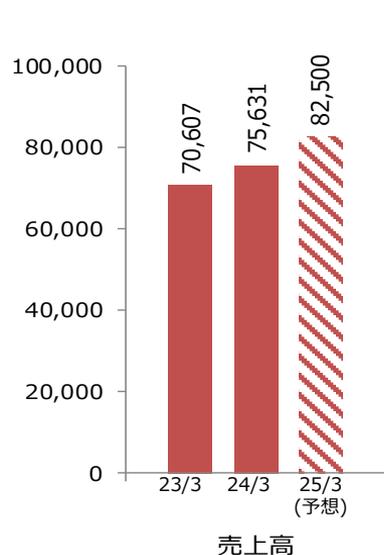
## 2025年3月期第2四半期 連結業績

- ❖ 第2四半期・上期実績
- ❖ 2025年3月期 通期予想
- ❖ 資本コストと株価を意識した経営の実現に向けた対応の進捗
- ❖ 中長期成長戦略「Mimaki V10」の進捗

# 連結業績予想ハイライト (2025年3月期)



(単位：百万円)	2024年3月期		2025年3月期								
	通期実績	売上高 比率	下期予想 (修正・差引)	売上高 比率	前年同期比 増減額	通期予想 (修正)	売上高 比率	前期比増減			前回予想比 増減額
								金額	率	率(除為替)	
■ 売上高	75,631	-	41,557	-	+1,363	82,500	-	+6,868	+9.1%	+8.7%	± 0
■ 営業利益	5,480	7.2%	3,551	8.5%	+402	8,250	10.0%	+2,769	+50.5%	-	+850
■ 経常利益	4,882	6.5%	3,178	7.6%	+311	7,500	9.1%	+2,617	+53.6%	-	+700
■ 当期純利益 <small>親会社株主に帰属する</small>	3,707	4.9%	2,349	5.7%	+54	5,600	6.8%	+1,892	+51.0%	-	+700
為替レート	米ドル	144.62円	138.00円	-	-10.25円	145.31円	-	+0.69円	+0.5%	-	+2.84円
(期中平均)	ユーロ	156.79円	150.00円	-	-10.20円	157.97円	-	+1.18円	+0.7%	-	+3.50円



## ■ 連結業績予想の前提

- ① 下期のグローバルでの市場環境等は期初予想から大きな変化は無いものの、各国金融政策の動向、地政学的リスクの増大、米国大統領選挙の結果など、依然不透明な要素は多い
- ② 下期の売上高は、製品市場別及びエリア別の動向や、営業活動及び新製品投入等の見通しを踏まえて見直した結果、前回(8/1)予想から変更ない
- ③ 下期の利益は、売上原価の見直しに伴い営業利益を修正するものの、単体売上高の見直しに伴う為替差損の増加を見込むため、経常利益、純利益は前回予想から変更ない
- ④ 上記②,③に、上期実績における前回予想からの上振れ分を加え、通期連結業績予想は上方修正する
- ⑤ 下期の主要為替レート的前提は、USD:138円/EUR:150円で据え置く

- 2024年度グループ経営方針を「進化する」と定め、売上高を伸ばしつつ2025年度までに営業利益率10%を達成する「Mimaki V10」の目標達成に向け、今までの課題を踏まえ新しい次世代のミマキに向けて進化を遂げる1年とすることを目指して、全社をあげて取り組む

# 営業利益増減要因

(24/3期 実績 vs 25/3期 予想)



## 【通貨別影響額】

USD / 144.62円 → 145.31円	+60
EUR / 156.79円 → 157.97円	+107
CNY / 20.14円 → 21.07円	-101
TRY / 5.51円 → 4.77円	-122
BRL / 29.30円 → 28.69円	-39
その他 (AUD、IDR等)	+50
合計	-44

## <為替感応度 (1円/年)>

	売上高	営業利益
USD	160	87
EUR	130	91

## 【売上原価率増減の要因】

海上輸送コストの上昇を織り込む一方で、高コスト部材を使用した製品の販売終結を見込むことから、改善を見込む

## 【売上・原価・営業利益への為替影響】

売上高 283 - 売上原価 247 - 販管費 80 = 営業利益 -44

(単位：百万円)

① 為替影響

② 売上高増減影響

③ 売上原価率増減影響

④ 販管費増減影響

5,480

-44

2,841

2,441

売上原価率  
56.9%  
↓  
53.9%  
(-3.0pt)

-2,468

販管費率  
35.9%  
↓  
36.0%  
(+0.1pt)

8,250

営業利益  
(24/3期)

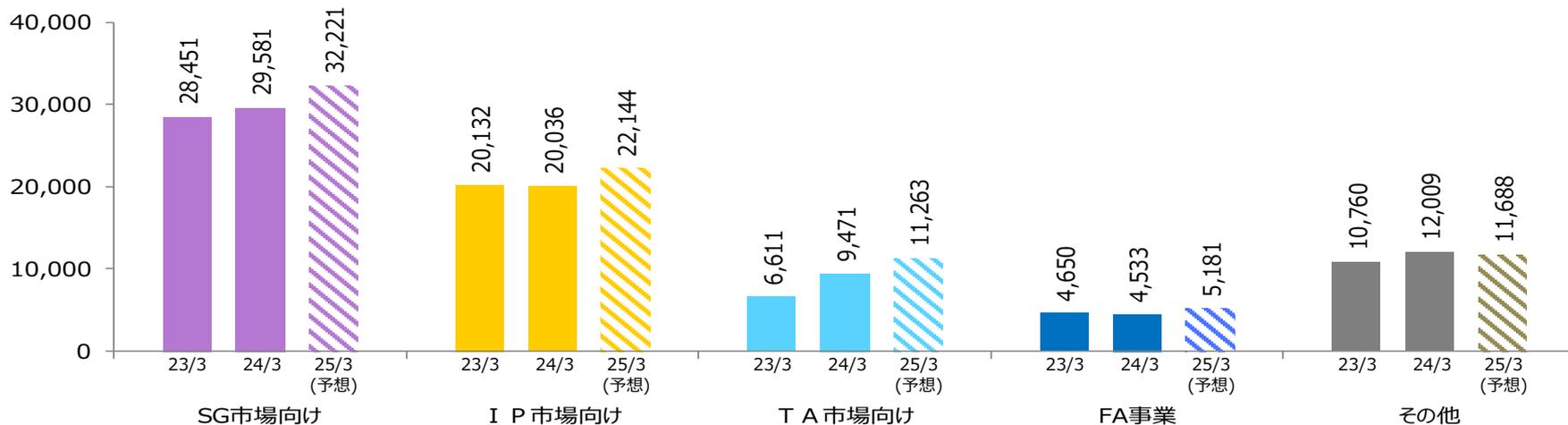
営業利益 +27億69百万円

営業利益  
(25/3期)

# 市場別売上高予想 (2025年3月期)



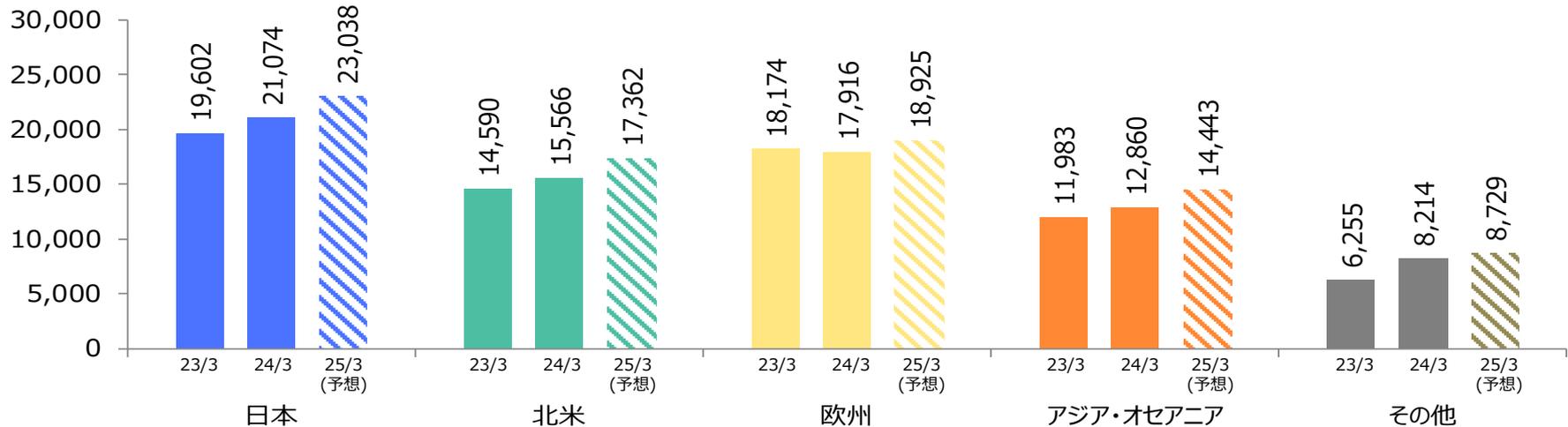
(単位：百万円)	2024年3月期		2025年3月期							
	通期実績	構成比率	下期予想 (修正・差引)	前年同期比 増減額	通期予想 (修正)	前期比増減			構成比率	前回予想比 増減額
						金額	率	率(除為替)		
SG市場向け	29,581	39.1%	15,943	+614	32,221	+2,640	+8.9%	+8.5%	39.1%	+874
IP市場向け	20,036	26.5%	11,544	+992	22,144	+2,108	+10.5%	+10.2%	26.8%	+151
TA市場向け	9,471	12.5%	5,934	+559	11,263	+1,792	+18.9%	+18.4%	13.7%	-1,567
FA事業	4,533	6.0%	3,037	+639	5,181	+648	+14.3%	+14.3%	6.3%	-105
その他	12,009	15.9%	5,097	-1,442	11,688	-321	-2.7%	-	14.2%	+646
合計	75,631	100.0%	41,557	+1,363	82,500	+6,868	+9.1%	+8.7%	100.0%	±0



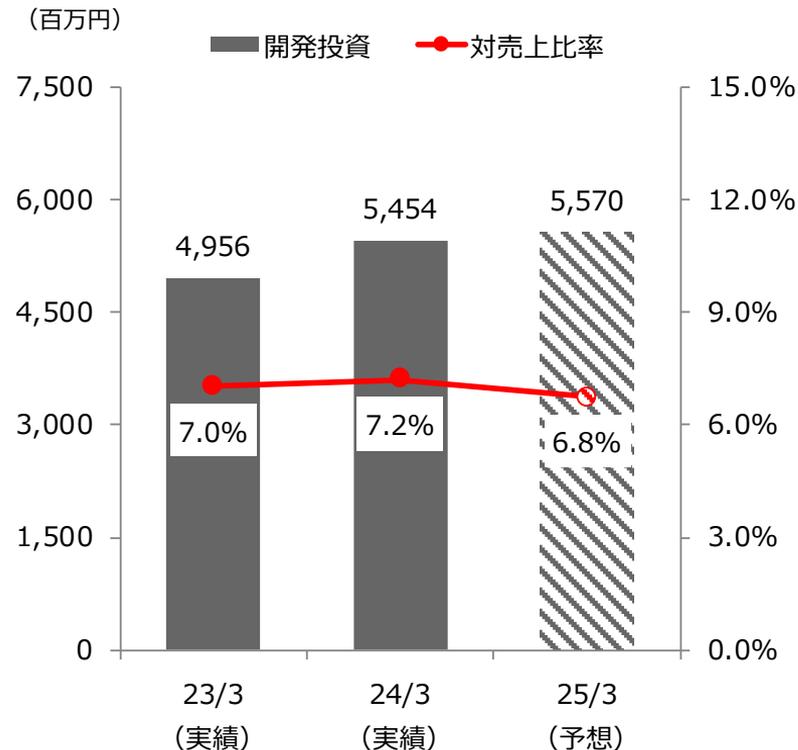
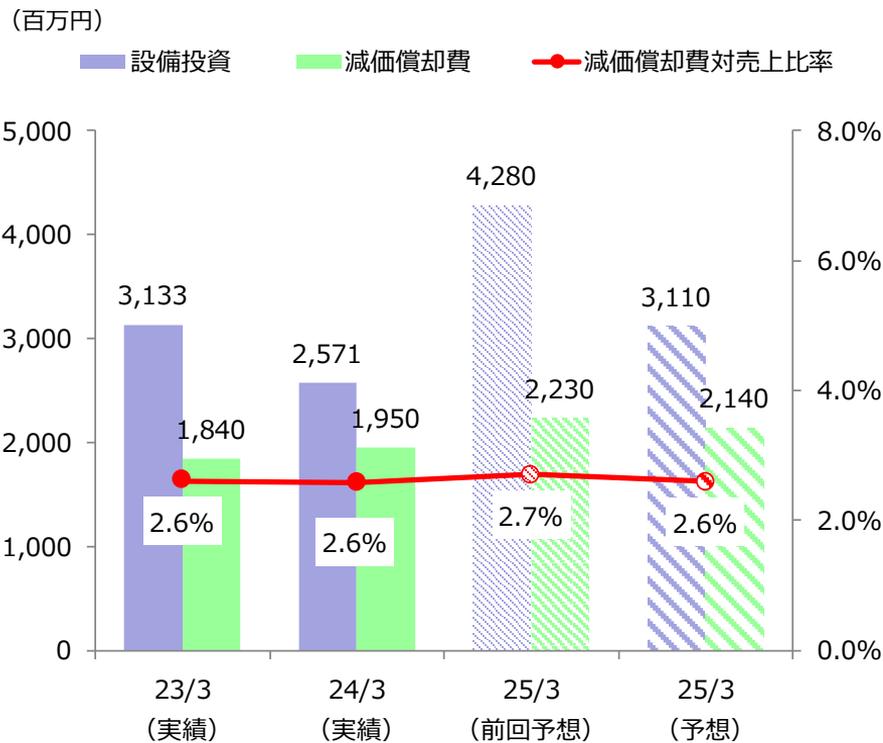
# エリア別売上高予想 (2025年3月期)



(単位：百万円)	2024年3月期		2025年3月期						
	通期実績	構成比率	下期予想 (修正・差引)	前年同期比 増減額	通期予想 (修正)	前期比増減		構成比率	前回予想比 増減額
						金額	率		
■ 日本	21,074	27.9%	12,055	+1,049	23,038	+1,964	+9.3%	27.9%	+162
■ 北米 (現地通貨/\$)	15,566	20.6%	8,474	+14	17,362	+1,795	+11.5%	21.0%	+465
	107.6M	-	61.4M	+4.3M	119.7M	+12.0M	+11.2%	-	+1.1M
■ 欧州 (現地通貨/€)	17,916	23.7%	9,650	+205	18,925	+1,009	+5.6%	22.9%	-174
	114.2M	-	64.3M	+5.3M	120.2M	+5.9M	+5.2%	-	-3.6M
■ アジア・オセアニア	12,860	17.0%	7,163	+173	14,443	+1,583	+12.3%	17.5%	-117
■ その他	8,214	10.9%	4,213	-79	8,729	+515	+6.3%	10.6%	-335
合計	75,631	100.0%	41,557	+1,363	82,500	+6,868	+9.1%	100.0%	± 0



# 設備投資、減価償却、開発投資予想 (2025年3月期)



2025/3期設備投資は、新社屋竣工が2026/3期となる見通しとなったこと等を踏まえ修正

※ 上記の金額は、研究開発活動に係る費用の総額を示すもので、既存製品の改良、応用等に関する費用が含まれております。

# 株主還元

## 株主還元の方針

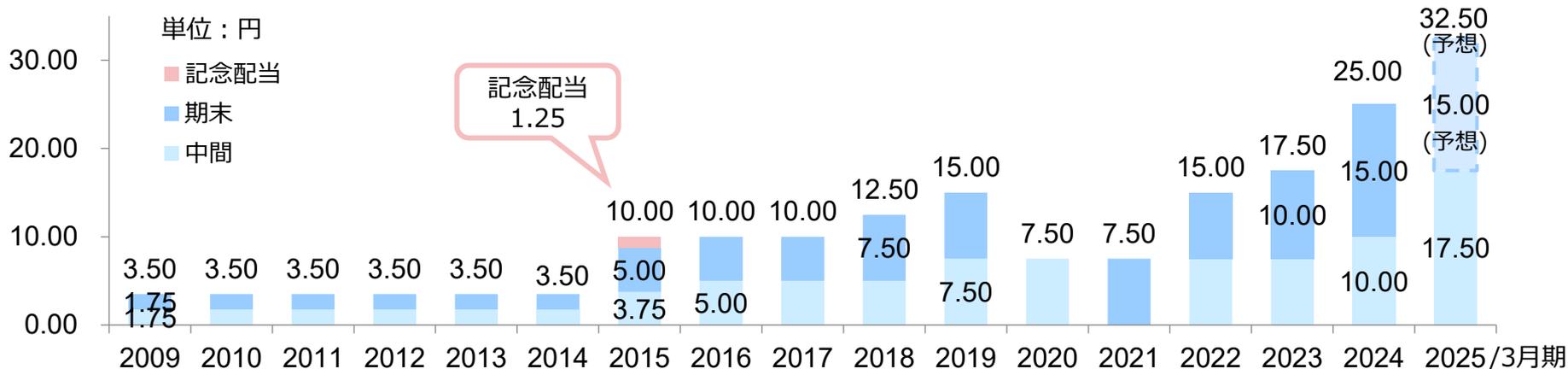
当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の重要政策と位置づけ、業績の成長に見合った成果の配分を安定的かつ継続的に行っていくことを基本方針としています

### ■ 2024年3月期 中間：10.0円、 期末：15.0円

業績及び今後の事業見通し並びに安定的・継続的な株主還元方針等を総合的に勘案し、年25.0円に増配

### ■ 2025年3月期 中間：17.5円、 期末(予想)：15.0円

中間連結業績が前回予想を上回り、中間利益として過去最高を更新したことを踏まえ、中間配当を前回予想から2円50銭引き上げ、1株当たり17円50銭に修正



※ 2015年3月期の記念配当は東証一部上場に係るものです

※ 2015年4月1日を効力発生日として1株につき2株の割合をもって株式分割を実施しています（分割前の配当金は遡及修正して表示）

## 2025年3月期第2四半期 連結業績

- ❖ 第2四半期実績
- ❖ 2025年3月期 通期予想
- ❖ 資本コストと株価を意識した経営の実現に向けた対応の進捗
- ❖ 中長期成長戦略「Mimaki V10」の進捗

## 当社の資本収益性(2024/9月末時点)

PBR	=	株価	÷	一株純資産
		1,365円		1,017.87円
1.34倍	≡	PER	×	ROE*2
		8.04倍		20.54%

株主資本コスト*1	<	ROE*2	=	売上高純利益率*2	×	総資産回転率	×	財務レバレッジ
		10%前後		20.54%		6.83%		1.11回

\*1 CAPM

\*2 ROEの純利益は過去4四半期累計値を使用

WACC	<	ROIC*3
4~6%程度		12.14%

ROIC*3	=	税引後営業利益*3	÷	平均投下資本
		6,239百万円		51,385百万円

\*3 ROICの税引後営業利益は過去4四半期累計値を使用

## 上期評価

中長期成長戦略「Mimaki V10」の目標達成に向けた収益改善の成果により  
資本収益性指標が大幅に改善

**PBR**

1.2～1.5倍の水準で安定的に推移

**PER**

10倍を割る水準が継続しており低位で推移

**ROE**

資本コストを上回り20%を超える水準、前期末比 5.4pptの改善

業績の大幅伸長に伴う当期利益率の上昇

在庫適正化の進捗に伴う総資産回転率の改善と財務レバレッジの低下

**ROIC**

WACCを上回り12%を超える水準、前期末比 3.7pptの改善

業績の大幅伸長に伴う税引後営業利益の伸長

利益剰余金の伸びを上回る有利子負債の減少により投下資本が減少

## 「資本コストや株価を意識した経営」の実現に向け以下の施策に取り組み 企業価値を向上させステークホルダーの期待に応える

1. 「Mimaki V10」目標の達成による収益改善
2. 将来成長実現に向けた戦略的な投資
3. 在庫及び借入金の適正化による財務基盤の強化
4. 企業価値向上に資する役員報酬制度の導入
5. 株主還元方針に基づく安定的・継続的な配当
6. 投資家との対話促進による資本コストの低減

# 1. 「Mimaki V10」目標の達成による収益改善の進捗



## 基本的な 取り組み

資本収益性指標の分子である利益の水準を引き上げ、  
資本コストと株価を意識した経営を実践する

- ◆ 「Mimaki V10」方針：売上高成長を追求するだけでなく、高い収益を継続的に生み出すとともに、財務基盤を強化して、持続可能な成長に向けた強靱な企業基盤を構築したうえで、2025年度までに営業利益率10%を達成する ⇒ 2020～25年度売上高平均成長率(CAGR)10%を目安に、売上原価率・販管費率を改善し、営業利益率を向上させる

	FY2020 実績	FY2021 実績	FY2022 実績	FY2023 実績	FY2024 予想	FY2025 目標
売上高成長率	-12.3%	+22.1%	+18.6%	+7.1%	+9.1%	
売上原価率	61.8%	59.9%	59.7%	56.9%	→	FY2020-24 予想CAGR <u>+14.1%</u>
販売管理費率	39.3%	35.8%	34.3%	35.9%	⇒	
営業利益率	-1.0%	4.3%	6.0%	7.2%	10.0%	10.0%
ROE	-1.9%	13.5%	13.8%	15.1%	—	—
株主資本コスト (CAPM)		10%前後			—	—

## 譲渡制限付株式報酬制度の導入

- ◆ 将来選任される取締役も含め、当社の取締役\*に当社の企業価値の持続的な向上を図るインセンティブを付与することを目的として導入
- ◆ 執行役員にも同様の譲渡制限付株式を付与
- ◆ これにより、当社取締役・執行役員は、株主の皆様との一層の価値共有を進め、企業価値向上に取り組む
- ◆ 2024年6月開催の第49期定時株主総会にて決議・承認、8月に付与実施

\*監査等委員である取締役及び社外取締役を除く

## IR活動強化

## ◆ 従来の活動は着実に継続

- 機関投資家・アナリスト向け決算説明会(2回/年)
- 機関投資家・アナリスト取材対応(四半期決算ごと)
- 個人投資家向け会社説明会(2回/年)
- 開示資料の英文開示(決算短信、決算説明資料、有価証券報告書)

## ◆ 今期の新たな取り組み

- 国内機関投資家向けスモールミーティング
  - 上期末にショールーム見学&社長・CFOスモール開催、下期も計画
- 海外機関投資家向けオンラインミーティング(2回/年)
  - 上期末にWeb形式で社長・CFO 1on1 ミーティング実施、下期も計画

## 2025年3月期第2四半期 連結業績

- ❖ 第2四半期実績
- ❖ 2025年3月期 通期予想
- ❖ 資本コストと株価を意識した経営の実現に向けた対応の進捗
- ❖ 中長期成長戦略「Mimaki V10」の進捗

1 独自技術を保有し、自社ブランド製品を世界に供給する「**開発型企业**」を目指します。

2 顧客に満足いただける製品を素早く提供する**小回りの利いた会社**を目指します。

3 市場に常に「**新しさと違い**」を提供する**イノベーター**を目指します。

4 各人が持っている**個性・能力**を**力一杯発揮**できる**企業風土**を目指します。

産業用印刷のデジタル化を推進する  
「お客様が儲かればミマキも儲かる」

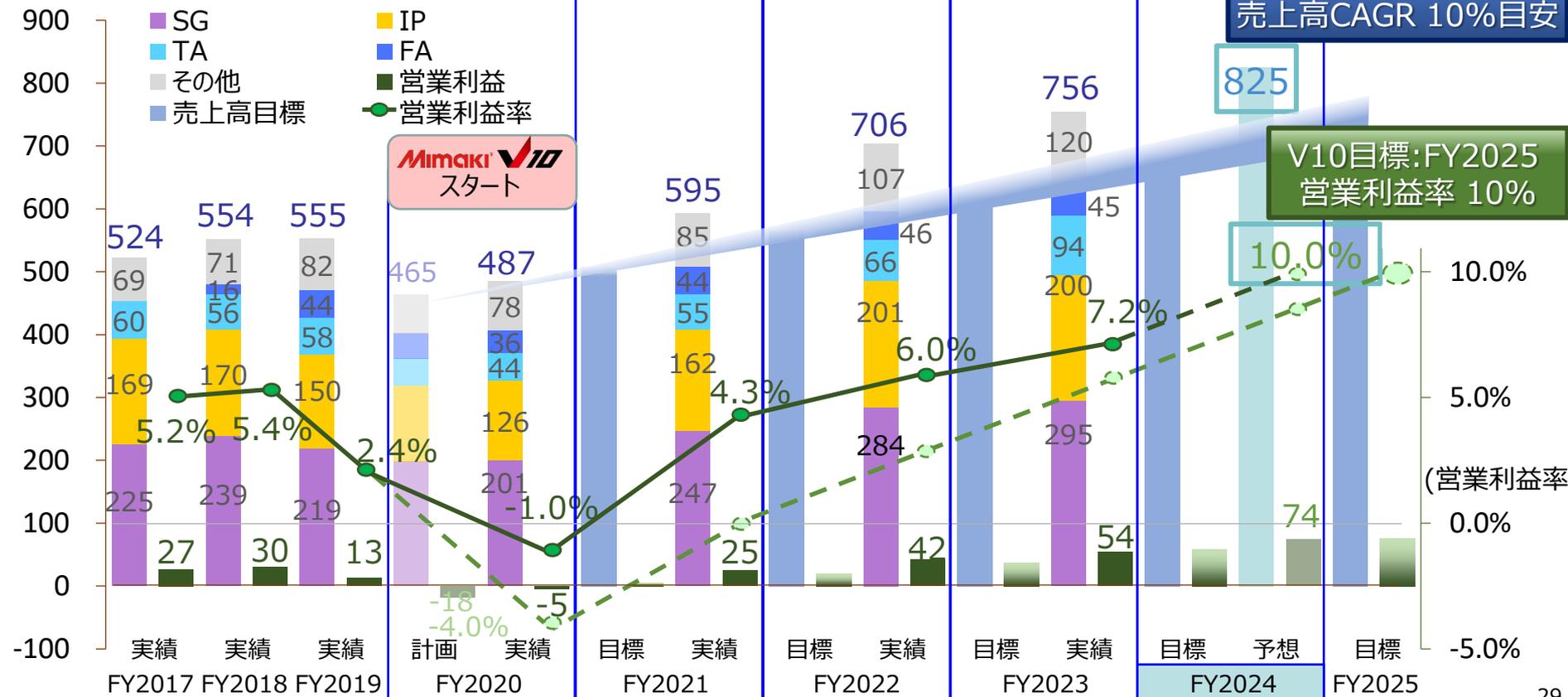
# 中長期成長戦略「Mimaki V10」の進捗



V10目標: FY2020-25  
売上高CAGR 10%目安

V10目標: FY2025  
営業利益率 10%

(単位: 億円)



## 中長期成長戦略「Mimaki V10」経営方針

売上高成長を追求するだけでなく、高い収益を継続的に生み出すとともに、財務基盤を強化して、持続可能な成長に向けた強靱な企業基盤を構築したうえで、2025年度までに営業利益率10%を達成する

「Mimaki V10」目標達成に向かって

- ✓ 今までの課題を踏まえて新しい次世代のミマキに向けて進化を遂げる1年とする
- ✓ 組織やプロジェクトが着実に発展し成長し続ける

2024年度 ミマキグループ経営方針

# 進化する

## SG市場

- 「Signはミマキ」、UVを最大化しSGシェアNo.1を奪取する
- エントリーからミドル・ハイエンド、プロダクションモデルまで幅広い市場・用途・ニーズに応じたお選びいただける製品ラインナップをさらに充実する
- 印刷目的に合わせ選択できる豊富な機能性インクを提供する

プリント&カット対応  
エコソルベントインクジェットプリンタ

## CJV200 series



### 高画質と、誰でも使える簡単さを追求

- ◆ フラグシッププリンタ「330エンジン」プリントヘッドをシングル搭載し、圧倒的な美しさを実現
- ◆ 使いやすいシンプル設計で、自動調整機能によりメディアを簡単かつ正確にセットアップ
- ◆ 操作経験が少ないオペレーターでも美しく、速く、簡単にプリント成果物の制作が可能
- ◆ エントリープリンタ「100」シリーズとフラグシッププリンタ「330」シリーズの間を固め、売上拡大を牽引

## IP市場

- 自動化・省人化で産業用印刷のデジタル化を推進する
- Print + Cut + α (Coating or Something)で産業用のさらなる深掘りを進める
- 新たな製品アプローチで、より高精細・高付加価値・高生産性の市場開拓を進める

ミドルサイズフラットベッド  
UV-LED方式インクジェットプリンタ

## JFX200-1213 EX



“Just In Size”- 高生産も高付加価値も  
高画質も “ちょうどいいサイズ” で

- ◆ 高画質、高付加価値、高生産プリントで世界中で好評の「JFX200-2531EX」のプリントサイズを半分にしたミドルサイズのフラットベッドUVプリンタ
- ◆ サイングラフィックス用途から紙、パッケージ用途まで国際規格のA判全てをカバーするテーブルサイズ
- ◆ ミドルサイズからプロダクションマシンまで、幅広いラインナップによりUVフラットベッド市場での地位を確かなものとし、売上成長に繋げる

## TA市場

- エントリーからミドル・ハイエンドモデル + DTF製品のラインナップ拡充でシェアを拡大する
- 顔料転写技術「TRAPIS」でDry Processを推進し市場開拓を進める
- 「ネオクロマトプロセス」の脱色技術で循環再利用型テキスタイル産業を推進する

### ダイレクト昇華と昇華転写を1台で

3.2m幅ハイブリッド・テキスタイルインクジェットプリンタ

## TS330-3200 DS



- ◆ 美しい画質と高生産性、省作業をアシストする高い付加価値機能を備えたフラグシップモデル
- ◆ ソフトサインに加え、インテリアファブリックへのプリントも可能、お客様の提案の幅を広げる
- ◆ 3.2m幅で大量にプリントするため、インクの持続的な売上拡大に貢献

## TA市場

- エントリーからミドル・ハイエンドモデル + DTF製品のラインナップ拡充でシェアを拡大する
- 顔料転写技術「TRAPIS」でDry Processを推進し市場開拓を進める
- 「ネオクロマトプロセス」の脱色技術で循環再利用型テキスタイル産業を推進する

Mimakiの技術を詰め込んだ  
「安心安定」のDTFプリンタ

# TxF300-1600



## 生産性が大幅にアップしたプロ仕様のDTFプリンタ

- ◆ 従来モデル「TxF150-75」と比べ最大約4倍の高生産性を実現
- ◆ 従来モデルからプリント幅を約2倍に拡張し、比較的幅広なインテリアファブリックのオリジナルプリントが可能に
- ◆ DTFプリンタのラインナップを拡充し、高い評価を得ている従来モデルと併せて、Tシャツ、バッグに加えインテリアファブリックへのプリントなど、用途拡大による売上成長をめざす

「お客様が儲かればミマキも儲かる」ことをしっかりと考えて、  
TEAM Mimaki として取り組む

本資料に関するお問合せ先

株式会社 **ミマキエンジニアリング**

I R 部

TEL (本社) 0268(80)0058

TEL (東京) 03(3442)5035

E-mail mimaki-ir@mimaki.com

〔本資料お取扱い上のご注意〕

本資料は、株式会社ミマキエンジニアリング（以下、当社）を理解いただくため、当社が作成したもので、当社への投資勧誘を目的としておりません。本資料を作成するに当たっては正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保証するものではありません。本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。

本資料中の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績は言及または記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となることがあることをご承知おきください。